

令和8年
2026年

4月28日
火曜日

第11940号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)

6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



- ▶ [牛・豚・鶏肉需給予測] 5月牛肉生産は前年比6・4%減 …… P2
- ▶ [農水省・厚労省／春の褒章] 小川畜産食品の小川社長、全肉生連の松岡副会長が受章 …… P3
- ▶ ナフサ不足で、国内製造業の3割に「調達リスク」の可能性—帝国DB …… P3
- ▶ [5月の相場見通し]牛枝肉・牛部分肉・輸入牛肉 …… P4～5
- ▶ [5月の相場見通し]豚枝肉・豚部分肉・輸入豚肉 …… P5
- ▶ [5月の相場見通し]国産鶏肉・輸入鶏肉・輸入牛内臓肉・素牛 …… P6
- ▶ 2025／26年度主要穀物の生産状況等の調査結果 (第7回) を公表 (ブラジル) …… P7

注目のヘッドライン

【牛・豚・鶏肉需給予測】5月牛肉生産は前年比6・4%減

農畜産業振興機構は27日、4月・5月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。

…詳細はP2

【農水省・厚労省／春の褒章】小川畜産食品の小川社長、全肉生連の松岡副会長が受章

…詳細はP3

- ▶ 第86回「名人会」枝肉研究会、茨畜連PF銚田牧場が最優秀賞ウスネフーズがキロ当たり2856円で購買 …… P8
- ▶ ハウス食品、「カレーでニクる。」発売後約1年で累計販売個数100万個突破 …… P8
- ▶ [外食産業市場動向・3月] 焼き肉は前年同月比5・3%増 …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 27日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 27日 …… P11



Nipponham Group
たんぱく質を、もっと自由に。

食肉施設の設計・施工・コンサルタント



— 食肉業界をリードする —

〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5
☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

【牛・豚・鶏肉需給予測】5月牛肉生産は前年比6・4%減

農畜産業振興機構は27日、4月、5月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。それによると、牛肉の生産量は4月が3万1500t(前年同月比2・9%増)、5月が2万5600t(6・4%減)と予測。品種別出荷頭数をみると、4月は和牛が4万8800頭、交雑種が2万2800頭、乳用種が2万4200頭、5月は和牛が3万8200頭、交雑種が1万8900頭、乳用種が2万1200頭とそれぞれ予測している。

また、輸入量は4月が4万9千t(7・7%減)、5月が4万1200t(14・9%減)とそれぞれ減少を予測。内訳をみると、4月は冷蔵品が1万4千t(5・6%減)、冷凍品が3万5千t(8・5%減)。5月は冷蔵品が1万2300t(24・2%減)、冷凍品が2万8900t(10・1%減)を見込んでいる。冷蔵品は、大型連休前で引き合いが増加しているものの、現地価格の高止まりや為替相場の影響などにより、4月は、主要輸入先である米国産の輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月をやや下回ると予測する。5月も同様の影響などに加え、主要輸入先である豪州産では前年のような通関のずれが見込まれないこと等から、前年同月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。冷凍品は、大型連休前で引き合いが増加しているものの、現地価格の高止まりや為替相場の影響などにより、米国産を除く主要輸入先の輸入量の減少が見込まれること等から、4月、5月共に前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

豚肉は、生産量は4月が7万7900t(0・6%増)、5月は6万6千t(9・7%減)の予測。輸入量は、4月が9万2600t(1・4%減)、5月が8万8100t(2・6%減)としている。冷蔵品は、相場上昇による牛肉、鶏肉からの需要のシフトの影響などから、4月、5月共に前年同月をかなりの程度上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。冷凍

品は、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置の影響によりスペイン産の減少が見込まれる一方、代替として北米産、ブラジル産などの増加が見込まれるものの、全体では、4月、5月共に前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

また、鶏肉の生産量は、4月は14万4300t(2・6%減)、5月は14万1900t(2・7%減)の予測。輸入量は、4月が5万1500t(8・0%増)、5月が5万4300t(11・8%増)としている。前年のブラジル産の輸入量がブラジル国内および他国向けの需要の高まりによる価格上昇により低水準であったことや現地での生産も堅調であったことなどから、4月はかなりの程度、5月はかなり大きく、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

牛・豚・鶏の需給予測 (単位: 頭、トン)

		4月		5月	
		出荷頭数	前年比	出荷頭数	前年比
牛 計		96,200	100.9	78,800	92.7
和牛		48,800	101.5	38,200	88.6
交雑牛		22,800	100.3	18,900	93.8
乳牛		24,200	100.4	21,200	99.4
豚		1,388,000	100.9	1,172,000	90.3
部分肉の需給予測		量	前年比	量	前年比
牛肉	生産量	31,500	102.9	25,600	93.6
	輸入量	49,000	92.3	41,200	85.1
	出回り量	80,500	106.7	66,700	99.6
	月末在庫量	138,300	99.2	138,400	93.9
豚肉	生産量	77,900	100.6	66,000	90.3
	輸入量	92,600	98.6	88,100	97.4
	出回り量	166,000	100.0	147,000	100.0
	月末在庫量	215,500	97.1	222,600	93.4
鶏肉	生産量	144,300	97.4	141,900	97.3
	輸入量	51,500	108.0	54,300	111.8
	出回り量	201,800	100.7	192,200	100.3
	月末在庫量	146,500	96.1	150,500	97.0
輸入量の内訳(部分肉ベース)					
牛肉	冷蔵	14,000	94.4	12,300	75.8
	冷凍	35,000	91.5	28,900	89.9
	合計	49,000	92.3	41,200	85.1
豚肉	冷蔵	39,300	109.7	38,100	110.4
	冷凍	53,300	91.8	50,000	89.4
	合計	92,600	98.6	88,100	97.4

【農水省・厚労省／春の褒章】 小川畜産食品の小川社長、全肉生連の松岡副会長が受章

農水省ならびに厚労省は令和8年春の褒章受賞者を発表した。農水省関係では25人、厚労省関係では113人が受章となった。本紙関係の受章者、功績概要は次の通り。

農水省[黄綬褒章]小川晃弘(小川畜産食品(株)社長、業務精励／食肉販売業、56歳、写真)▷山尾佳輝(畜産業、業務精励／畜産業、79歳)▷山本満年(業務精励／畜産業、66歳)[藍綬褒章]谷川富成(元一般(株)日本フードサービス協会副会長、外食産

業振興功績、68歳)

厚労省[藍綬褒章]松岡謙(全国食肉生活衛生同業組合連合会副会長、多年生活衛生関係団体の要職にあつて斯界の向上に寄与したこと、68歳)



ナフサ不足で、国内製造業の3割に「調達リスク」の可能性—帝国 DB

中東情勢の緊迫化で、原油から精製されるナフサ(粗製ガソリン)の供給・調達への不安が強まり、国内産業に影響が広がっている。ナフサは、幅広い産業におけるサプライチェーンの上流を支える重要な原材料に位置付けられている。

帝国データバンクはこのほど、主要な化学製品メーカー52社を頂点とした「ナフサ由来の基礎化学製品」のサプライチェーン(=ナフサ関連取引)を分析した。52社からの原料調達などで取引関係を有する直接取引(1次取引)と、問屋や商社経由の調達に加え、1次加工企業から部材・部品などを調達・加工(2次取引)の商流が判明した製造業は、全国に4万6741社に上った。集計対象とした全製造業(約15万社)のうち、約3割に相当する企業でナフサ関連製品の調達リスクに直面する可能性がある。サプライチェーンの分析ではエチレンなどの基礎化学品のほか、頂点企業の取扱製品によってガソリンなどの燃料や、建築・土木用途のマテリアル素材などを含むケースがあるものの、国内製造業の3割がナフサ関連製品を原材料とした産業に携わっている可能性がある。また、3次取引以降の流通や、最終製品を通じた小売現場も含めると、より広範囲の企業に影響が及ぶとみられる。

製造業態別にみると、サプライチェーン上の社数が多く、最もナフサ高騰による影響を受けやすい(ナフサ依存度が高い)業種は「化学工業、石油・石炭製品製造」で、集計可能な約4700社のうち67・2%、3148

社が該当。このうち、プラスチックや合成繊維・染料、医薬品や化粧品、農薬などの原料・中間体を製造する「環式中間物製造」が最も高く、88・4%が該当した。このほか、酢酸ビニル樹脂やエポキシ樹脂を原材料とした合成接着剤を含む「ゼラチン・接着剤製造」(87・3%)、洗濯洗剤や自動車用塗料などに幅広く使用される「界面活性剤製造」(84・0%)なども高く、集計可能な25業種のうち「ナフサ依存度」が50%を超えた業種は23に上った。

次いで高い業態は「ゴム製品製造」で、約1600社のうち51・5%、817社と、半数を超える企業でナフサ関連の商流に該当した。中でも自動車や船舶、航空機用のゴム製部品製造を担う「工業用ゴム製品製造」が最も高く、53・9%だった。防振用ゴムなど土木・建築用から、自動車向けシーリング材、医療・工業用グローブ(手袋)など産業用、輪ゴムをはじめとする民生品など幅広い製品群を含む「他のゴム製品製造」も51・2%と半数を超えた。

「パルプ・紙・紙加工品製造」(48・9%)は、ハンバーガー包装紙やコーヒーフィルターなどに使用されるポリエチレンラミネート紙といった「塗工紙製造」が最も高く、80・1%(141社中／113社)を占めた。産業用途では、セメント袋や米麦用袋など「重包装紙袋製造」が高く、71・6%(81社中／58社)だった。

このほか、「食料・飼料・飲料製造」(35・8%)では、調味料から飲料・各種食品まで幅広く該当した。

[5月の相場見通し] 牛枝肉・牛部分肉・輸入牛肉

【牛枝肉】高値もちあい維持、4月水準よりはやや下げ

【東京】想定以上の高値に、ゴールデンウィーク向けの手当が終わっていないところもあり、正月並みの相場が続いている。この後は、GW期間中の消費次第だが、連休明けの補充買いが終わると、相場は一段安が予想される。

5月の東京は、開市日が少ないこともあり、前年同月より少ない6500頭ほどが上場される見通し。alicの需給予測によると、全国と畜頭数も前年同月より減少するとしている。GW前半は全国的に天候が良く、後半は崩れる日もあるとの予報。消費が伸び悩んだ場合、少ない出荷と、和牛は需要拡大対策もあり、弱もちあいから小幅安。交雑牛はもちあいから弱もちあいか。市中在庫が多くなれば、「200～300円下がる」(卸)との見方もあり、不透明な状況となっている。

【大阪】前月は全国的に高値相場となったことで、大阪市場もかなりの高値で推移した。和牛の集荷頭数が十分ではなく、手当で不足が影響しているようだ。需要期であるGW期間を過ぎれば需要は一服し、相場も下落局面に入るとみられるが、それでも全国的な頭数不足は解消されない見通しで、和牛価格は高止まりする見通し。A5、A4共に、4月水準よりは下がるが、一定の高値を維持するとみる。交雑牛についても、和牛の代替としてかなりの高値を形成。交雑牛は低価格需要を受けて、5月も相場はほぼ下落することなく、4月並みの高値を維持しそうだ。

【福岡】大型連休明けで実需への期待感は乏しいが、高級業態など一部の外食人気と出回り頭数の減少から相場は底堅いか。特に品薄・現地高の輸入物の代替需要から中・低級物は人気が続く。和牛経産は消費者の節約志向を追い風に堅調。交雑種は上場頭数次第だが、量販店向けの安定実需が支え、前月水準を維持するか。

和牛A5等級(去勢、税込み)で2750円、A4等級で2600円台、交雑種はB3で1800円。和牛経産はA2等級で1800円台か。

【牛部分肉】枝高価格転嫁進まず、荷動きはバラ系中心か

【東京】5月は焼き材の需要が高まる重要な期間。

小売の売り場では週末にはBBQなど行楽向けの提案や品ぞろえが行われている。梅雨入りするまでは、バラ系や切り落とし中心に動くだろう。

相場と末端価格との乖離は大きい。卸各社はほとんどの部位の唱え値を上げているが、消費が相場ほど極端に伸びている状態でもないため、小売現場でも値上げは悩ましい状況。また例年、連休が終わると消費は弱くなる。米国・イランの緊迫した情勢が長引けば、生活防衛意識がさらに強まる可能性もある。輸入物の高止まりなどから、代替として乳牛、特にネックやスネといったひき材の需要が高まっている。

【大阪】4月の和牛枝肉相場が高かったため、5月の大型連休が終わってからも、高値で仕入れた枝肉を売っていく必要があるため、5月価格も一定の高値を維持する見通し。しかし、枝相場の上昇幅に対して、部分肉の上昇は限定的だ。頭数不足で相場そのものは上昇しているものの、実需自体が高まっているわけではないため、価格転嫁するのは難しい。部位別にみると、バラ、カタ、モモへと転嫁しているものの限定的で、特にロイン系の高単価部位は転嫁が進まないままとなっている。

交雑牛の枝肉価格も高値となっているが、低価格商品としてのニーズが強いため、価格反映は遅れている。

【輸入牛肉】豪州チルド相場上昇、GW明けは需要下がる

輸入牛の豪州産チルドは、4月下旬段階では連休直前の需要もあって価格が一段上昇している。特にカタ系、ロイン系、バラ系などがよく動き、モモ系はやや弱い。恒常的な米国産の供給不足による市中在庫の逼迫感と仕入高、末端の需要などによって相場が上昇している。関西圏の入船遅れの影響による相場高と思われたが、東西での価格差はほとんどない。しかし、GW明けには需要が下がることに加え、通関遅れの商品がまとまって入荷する。そうした状況から、卸筋では今のうちに売り抜きたい考えだ。先々の相場見通しについては、仕入価格は上昇しているが、国内の引き合いがどこまでついてこられるかによって左右される。昨今は豪州産、米国産共に上昇しているが、現段階で引き合いが落ちていないことから、末端もついてきている

ようだ。米国産ではショートプレートが上昇しているが、おおむね前相場を維持している。

フローズンは豪州産、米国産共に相場に変動はないが、引き続き市中在庫は逼迫傾向、荷動きは鈍い。

[5月の相場見通し] 豚枝肉・豚部分肉・輸入豚肉

【豚枝肉】高値の相場展開が続く、出荷は平年比で12%減

【東京】4月は、上旬は花見などの行楽需要、さらに後半はゴールデンウィークに向けた引き合いも増加。一方で全国的に出荷頭数は減少傾向となり、全国と畜頭数が6万頭を割り込む日もみられた。

5月はさらに気温の上昇が予想され、出荷頭数は夏場に向けて減少基調となっていく。農水省の肉豚生産出荷予測によると、5月は117万2千頭と前年同月比では9%減、平年比に至っては10%減と大幅な減少を予測している。例年以上に出荷頭数が伸び悩む予測となっており、加えて豚熱なども断続的に発生している。大型連休明けで、需要の端境期ではあるが、引き続き出荷頭数の減少から高値の相場展開となりそうだ。

【大阪】大阪市場に限らず、全国的にも、近年は年間のほとんどが高値相場となっている。輸入ポークの相場高や、国産豚肉の手当て難から、700円を上回る相場を形成しており、卸売事業者・小売店にとって非常に厳しい相場環境となっている。5月に入れば、頭数不足はさらに顕著になっていく見通し。たとえ需要期である大型連休が終了したとしても、現在の高値相場を継続する見込み。

5月以降も頭数不足は回復せず、高値は長期的なものとなるだろう。大型連休明けで実需への期待感乏しいものの、出荷に影響が出れば需給は引き締まり早々に反発するか。市況は上場頭数次第でまちまちだが、基調は強気配をキープする。月平均の相場予測は700円台前半。国際情勢の混乱など外的要因の波乱要素も多い。先行指標となる関東周辺市場の値動きには注意が必要か。

【豚部分肉】底堅い展開が続くか、スソ物の荷動きは堅調

【関東】5月は、ゴールデンウィークが明けると、行楽需要にも一服感がみられる時期であり、例年通りなら需要の端境期となっていく。一方で気温が上昇していく中で、全国的に出荷頭数はさらに減少傾向での推

移が予想される。

冷蔵品は、引き続きバラやカタロースの引き合いは堅調か。さらにスソ物も安定した引き合いが継続しそうだ。冷凍品については、一部では逼迫する輸入ベリーからの代替需要もみられる他、冷蔵品同様にウデやモモといったスソ物の荷動きは堅調か。一方、スペアリブなどのアイテムについては、連休明けにイベントや行楽需要に一服感がみられることもあり、荷動きの鈍化が予想される。

【関西】供給の端境期と旺盛な実需が重なり、一段の強含みが予想される。昨夏の猛暑による母豚の受胎率低下の影響で出荷頭数の伸び悩みが続く一方、需要面では大型連休に伴うBBQ向けのバラやカタロースの引き合いがピークを迎える。

連休後も多少の反動減はあっても、輸入豚肉のコスト高騰を背景とした国産回帰の動きも鮮明で、肉食需要の定着が相場を下支えする見通し。特に加工用需要が堅調なウデやモモの下げ渋りが、相場全体の水準を底上げする公算が大きく、当面は品薄感を背景とした底堅い展開が続く情勢か。

【輸入豚肉】底堅い需要が続くか、国産高値による代替も

緊張が続く中東情勢の影響により、原油価格高騰や円安、さらに物流の混乱など、輸入環境は不透明な情勢が継続している。

チルドポークについては、引き続きベリーなどについてフローズンポークからの代替需要がみられることや、国産の相場上昇により、5月もロインを中心に堅調な荷動きが続くか。気温がさらに上昇していく中、売り場では冷しゃぶ用の提案などが増えてくる時期でもある。

一方、フローズンポークについては、スペイン産の在庫状況を踏まえ、他国産への切り替えが進んでいる。そうした中、さらなる物価高騰などにより、量販店の売り場では、より安価な解凍スライス品の提案も増加。連休明けは消費者の節約志向も強く、底堅い需要が続くそうだ。

[5月の相場見通し] 国産鶏肉・輸入鶏肉・輸入牛内臓肉・素牛

[国産鶏肉] モモ肉は強気の推移、冷凍物おおむね軟調な値動きになるか、ムネ肉やや値を上げる

生鮮モモはゴールデンウィークなどに家庭での調理機会が増え、から揚げなどでの引き合いも強まることから、日経荷重平均の東京相場で835～840円前後のもちあいないし強もちあいの推移が予測される。

生鮮ムネも気温の高まりとともに涼味商材としての需要期に入り、やや値を上げるものと考え。中東情勢のいかんによっては、包材など諸物価の値上げが大きく報じられることもあり、節約志向を背景に鶏肉全般の引き合いが一層強まる可能性も考えられる。

冷凍物は輸入物の逼迫感が薄れること、また、国内の高病原性鳥インフルエンザのシーズンが明けたことで、おおむね軟調な値動きとなる。

[輸入鶏肉] 軟調な荷動き、在庫は不足感

ブラジル産、タイ産共に輸入量はおおむね前年並みに回復しているが、現地価格も高いことから輸入価格も高い。ゴールデンウィーク以降、梅雨入り前までは人の動きは活発で、中食・外食共に需要期といえる。

モモ正肉、カット物とも軟調な値動きが予測されるものの、国内在庫の不足感は、5月中は続くものと考え。ブラジル産、タイ産共にモモ正肉で750円、カット物で800円を上回る高値が維持されるものと考え。

[輸入牛内臓肉]

相場の下げ要因ない、価格度外視の現物確保

4月からの記録的な需給逼迫を受け、引き続き過去最高値圏での推移が続く見通し。最大の供給源である米国では、牛と畜頭数が歴史的な低水準に沈んだままで、パッカーの稼働回復は見込めない。タンやハラミといった人気部位は「物理的欠乏」の状態にあり、大手各社は仕入れルートの維持に全力を挙げている。物流面では、中東情勢の緊迫化が長引くことで、各航路の停滞による、空コンテナ不足が間接的な運賃押し上げ要因として作用する見込み。為替が歴史的な円安水準で定着していることも重なり、卸価格の引き下げ要因は見当たらない。

大型連休後の反動減はあるものの、インバウンドによる旺盛な外食需要が下支えとなり、相場は高止まりする公算が大きい。末端の飲食店では国産豚への代

替やメニュー改定が一段と進むが、当面は「価格度外視の現物確保」が最優先されるタイトな環境が続く。

[素牛] 和子牛高値もちあい、乳子牛も強含みで推移

[和子牛] 4月20日公表の市場成績(全農、速報)は全国平均(税込み、雌・去勢)が前月終値から8300円高の85万3千円と続伸。前月に比べ伸び幅は大幅に縮小したが、継続的に基調は強い。肉牛資源の減少による上場頭数の少なさに加え、年末出荷の安定実需が相場を下支えし、価格を押し上げた。性別では雌が5700円高の78万4千円、去勢は1万1千円高の90万8千円とさらに一段上げた。全国的にみると南九州では前月実績割れも一部目立つが、同日までに取引を終えた42市場のうち8割が前月水準を上回っている。

5月は例年同様の動きであれば年末出荷用の手当てが一服し、需要は落ち着くが、今年は構造的な素牛不足から需給が逼迫し先行きが読みにくい。基調は高値もちあい。全国平均は去勢で90万円超え、雌は77万～79万円台とみる。

[乳子牛] 4月の乳牛去勢枝肉相場は、インバウンド需要から外食を中心に取扱量は増加したものの、消費者の節約志向が一層強くなったことから、前月価格のもちあいとなった。素牛集荷については、上場頭数は増加したが、全国価格では前月価格の横ばいの相場展開で推移した。北海道主要7市場における初生ホル雄の取引概況は、1開催当たりの上場頭数の減少が継続しており、出生頭数の減少が見通される情勢の中、引き合いが強まったことで上げの相場展開に。5月の乳牛枝肉相場は、インバウンド需要や行楽需要で一定量の回復基調が見込めることから、前月価格をベースに上げの相場展開が想定される。素牛価格については、依然として資源不足が見込まれるものの、もちあいの相場展開か。

北海道における初生ホル雄の取引価格については、肥育農家が乳雄資源を確保する動きが見込まれるため、強含みで推移すると思われる。交雑種においては雌45万円前後、去勢52万円前後の市場展開が予想される。

2025 / 26 年度主要穀物の生産状況等の調査結果 (第 7 回) を公表 (ブラジル)

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)は14日、2025/26年度(25年9月から翌8月までにばん種されるもの)第7回となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物(大豆、第1期作とうもろこしなど)や秋植えの冬期作物(第2期作・第3期作とうもろこし、小麦、大麦、ライ麦など)の生産予測を毎月公表するものである。

25/26年度のとうもろこし生産量は、前回予想(26年3月)より130万2千t上方修正され、1億3957万2千t(前年度比1.1%減)と、過去最大となった24/25年度に次ぐ生産量が見込まれている。

内訳をみると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、前回から61万8千t上方修正され、2796万8千t(12.2%増)と、前年度をかなり大きく回ると見込まれている。第1期作の収穫作業は、4月上旬時点で作付面積全体の51.3%まで完了しており、平年(51.0%)を0.3ポイント上回る進捗率となっている。中でも、主産地である南部では、すでに終盤に差し掛かっている。収穫が進んでいる州では、安定した気象条件に恵まれ、良好な収量が得られている。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、前回から68万4千t上方修正され、1億911万8千t(3.6%減)と、前年度をやや下回ると見込まれている。第2期作の作付けは、降雨量の減少と大豆の収穫作業の進展により大きく前進し、4月上旬時点で作付面積全体の99.2%で完了しており、平年(98.3%)を0.9ポイント上回る進捗率となっている。第2期作の初

期生育について、一部の地域では降雨不足がみられるが、ほとんどの地域では気象条件に恵まれ、初期生育は良好と報告されている。

25/26年度のとうもろこし需給をみると、生産量が前回から上方修正されたことで、期末在庫は1281万3千t(1.0%増)と前年度をわずかに上回る見込みである。生産量は過去最大であった昨年度には及ばないと見込まれるものの、国内のエタノール向け需要や輸出需要は依然として堅調である。

25/26年度の大豆生産量は、前回より130万5千t上方修正され、1億7915万2千t(4.5%増)と、前年度をやや上回り過去最大となる見込みである。収穫作業は、降雨量が減少したことで前進し、4月上旬時点で作付面積全体の82.1%で完了しており、平年(78.0%)を4.1ポイント上回る進捗率となっている。

25/26年度の大豆需給をみると、ディーゼル燃料に対するバイオディーゼル混合率を15%から16%に引き上げる措置が延期されたことにより、加工量が前回より下方修正されたものの、輸出量が上方修正されたことにより、総需要量は66万7千t上方修正され、1億7966万6千t(5.9%増)となる見込みである。しかし、これを上回るほどの生産量の上方修正があったため、期末在庫は前回から42万2千t上方修正され、996万1千t(0.1%減)と、前年度並みとなる見込みである。(農畜産業振興機構)

表1 2025/26年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積(万ha)				単収(トン/ha)				生産量(万トン)			
	2024/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度		
		(3月予測)	(4月予測)	前年度比(増減率)		(3月予測)	(4月予測)	前年度比(増減率)		(3月予測)	(4月予測)	前年度比(増減率)
穀物合計	8,173.5	8,315.5	8,333.0	2.0%	4.3	4.3	4.3	▲ 0.8%	35,226.6	35,344.6	35,634.4	1.2%
トウモロコシ	2,183.8	2,240.8	2,248.3	3.0%	6.5	6.2	6.2	▲ 4.0%	14,115.8	13,827.0	13,957.2	▲ 1.1%
第1期作	377.3	406.9	410.3	8.8%	6.6	6.7	6.8	3.1%	2,493.6	2,735.0	2,796.8	12.2%
第2期作	1,743.0	1,776.2	1,779.2	2.1%	6.5	6.1	6.1	▲ 5.6%	11,322.8	10,843.5	10,911.8	▲ 3.6%
第3期作	63.5	58.8	58.8	▲ 7.4%	4.7	4.2	4.2	▲ 10.3%	299.4	248.5	248.5	▲ 17.0%
大豆	4,734.6	4,843.5	4,847.3	2.4%	3.6	3.7	3.7	2.0%	17,148.1	17,784.7	17,915.2	4.5%

資料: CONAB

注1: 2026年4月14日公表データ。

注2: 第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌6月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3: 第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1~3月にかけて播種が行われ、6~9月に収穫される。

注4: 第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5~6月にかけて播種が行われ、10~11月ごろに収穫される。

注5: 大豆は、10月ごろから順次播種され、翌6月ごろまでに収穫をほぼ終える。

第86回「名人会」枝肉研究会、茨畜連PF 銚田牧場が最優秀賞 ウスネフーズがキロ当たり 2856 円で購買

第86回「名人会」肉用牛枝肉研究会が24日、東京市場で開催された。研究会では、76頭が出場し、(株)茨畜連PF銚田牧場の出品牛(枝肉重量707kg、格付A5、BMSNo.12、歩留まり基準値79・8)が最優秀賞を受賞。(株)ウスネフーズが2856円で購買した。

競り後には審査講評が行われた。最優秀賞牛について「重量が707kg、歩留まり基準値が79・8と、体形もしっかりした枝肉で、全体的な構成比が抜きん出ている。重量面で票が分かれたが、改良などで牛の大型化が進む中で食肉店もそれに対応していく必要がある」と講評した。

その他の入賞牛(性別、枝肉重量、格付、歩留まり基準値、キロ単価、購買者)は次の通り。

[優秀賞]1席 迫田浩司(去勢、608kg、A5、80・0、2937円、コシヅカ)▷2席 茨畜連PF銚田牧場(去勢、628kg、A5、81・4、2930円、スズチク)▷3席 迫田和男(雌、452kg、A5、80・7、2701円、富作商



店)、高梨牧場(去勢、619kg、A5、80・7、2840円、コシヅカ)、前川忠昭(雌、575kg、A5、79・2、2752円、同)、柴田知樹(去勢、549kg、A5、76・4、2672円、スガワラ)、茨畜連PF銚田牧場(去勢、568kg、A5、79・3、2681円、スズチク)、同場(去勢、578kg、A5、81・4、コシヅカ)

[推奨牛]前川忠昭(去勢、470kg、77・8、2471円、鎌倉ハム村井商会)、大浦夕輝(雌、535kg、A5、78・9、2498円、丸富商店)

ハウス食品、「カレーでニくる。」 発売後約1年で累計販売個数100万個突破

ハウス食品(株)が販売する、同社レトルトカレー史上最大の肉量を誇るレトルトカレー「カレーでニくる。(牛肉・豚肉)」は、2025年2月に新発売して以降好評を博し、26年3月時点で累計販売個数100万個を突破したことを発表した。通常のレトルト加熱殺菌では、肉の風味が抜けてしまったり、うまみや香りがソースに逃げ出してしまう課題があったが、同製品では肉のうまみや香りを閉じ込め、かめばかむほど肉のおいしさが染み出すハウス食品の新加工技術「お肉パラダイス製法」を採用。また、牛肉は50g、豚肉は55gの豚肉が入っており、同社レトルトカレー史上最大の肉量を記録。肉の大きさも最大クラスで、肉好きにはたまらない一品となっている。

同社パーソナル食品事業部の岩金慶氏は「今までのレトルトカレーの概念を覆し、カレーではなく肉を主役にした『肉を食べるカレー』というコンセプトと新加



工技術『お肉パラダイス製法』によって実現した圧倒的な肉のおいしさに対して好評をいただいていることが販売好調の要因と考えている。特に、30～40代のミレニアル世代に多く購入いただいている。多くの人にレトルトカレーのおいしさや楽しさを再認識してもらうきっかけになればうれしい」とした。

【外食産業市場動向・3月】焼き肉は前年同月比5・3%増

一般社団法人日本フードサービス協会が公表した外食産業市場動向調査によると、3月は全国的に気温が上昇し好天に恵まれた日が多く、また後半の花見需要、春休み、歓送迎会などのイベント需要やインバウンド需要も取り込んだことと、客単価上昇とファーストフード業態の堅調により、外食全体の売り上げは前年比5・7%増となった。一方で、物価高による消費者の節約志向で客数が伸び悩む業態・企業もあり、各社共期間限定商品の投入やお得なキャンペーンの実施、CM・メディア露出などを強化することで、客数・客単価の維持に努めている。

ファーストフード業態の全体の売り上げは6・4%増となった。「洋風」は、人気メニューの復活を含む期間限定商品の投入や春の新CMによる集客増などで、売り上げ6・1%増となった。「和風」は、新メニューの連続展開や、人気タレントのCM起用による基幹商品の訴求力向上などで、売り上げ11・7%増となった。「麺類」は、引き続きお得なキャンペーンなどで集客好調となり、売り上げ10・7%増。「持ち帰り米飯／回転ずし」は、「回転ずし」で客数の伸びがみられず、売り上げ1・3%減。「その他」は、「アイスクリーム」の春キャンペーン、「カレー」の新メニューや期間限定の高単価商品などが好評で、売り上げは3・8%増となった。

ファミリーレストラン業態全体の売り上げは4・9%増となった。「洋風」は、節約志向の中、客数で苦戦するところがみられたが、低価格業態がけん引する形で

売り上げ5・4%増。「和風」は、比較的堅調な家族客のハレ需要があったものの、客数が弱い状況が続いており、客単価上昇と店舗増に支えられて売り上げ4・8%増。「中華」も、店舗増と客単価上昇で、売り上げ2・7%増。「焼き肉」は、引き続きお得なキャンペーンの好評に加え、春休みや歓送迎会の需要が好調、一部では予約サイトの来店直前予約サービスを活用した集客増もあり、売り上げは5・3%増となった。

パブ・飲酒業態は、一部では客数の伸び悩みがあったが、歓送迎会の季節を迎え、月間を通して中小グループの宴会を中心に堅調に推移、低価格ランチの投入やメニュー価格維持などで集客するところもあり、「パブ・居酒屋」の売り上げは4・8%増となった。来店直前予約サービスを活用した空席対策で売り上げが下支えされるところもあった。

ディナーレストラン業態は、宴会需要は各社まちまちで、中東情勢の緊迫化の中、法人宴会の低調もみられたが、中小グループ宴会はおおむね堅調。また、和食の食べ放題業態の堅調と、店舗増の後押しもあり、売り上げ4・8%増となった。インバウンド需要は中国以外の国・地域からの訪日客数が順調に伸び、一部を除き売り上げはおおむね堅調となった。

喫茶業態は店舗によって明暗が分かれるが、季節メニューの投入と客単価上昇で、売り上げは5・3%増となった。

外食産業市場動向(全店)

単位: 社、店、%(前年同月比)

業態	事業者数	店舗数	売上高	店舗数	客数	客単価
全体	219	37076	105.7%	101.3%	102.8%	102.9%
ファーストフード合計	52	21834	106.4%	102.0%	103.3%	103.0%
洋風	19	6317	106.1%	102.1%	102.8%	103.3%
和風	16	5393	111.7%	102.7%	105.7%	105.8%
麺類	18	3198	107.7%	102.3%	106.6%	101.0%
持ち帰り米飯・回転ずし	17	4442	98.7%	100.0%	95.0%	103.9%
その他	9	2484	103.8%	103.3%	102.3%	101.5%
ファミリーレストラン合計	66	9525	104.9%	100.0%	101.7%	103.1%
洋風	33	4348	105.4%	98.8%	102.0%	103.3%
和風	32	2579	104.8%	102.2%	100.1%	104.7%
中華	13	1235	102.7%	102.0%	102.5%	100.2%
焼き肉	16	1363	105.3%	98.3%	102.8%	102.4%
パブ・レストラン／居酒屋合計	34	2079	104.8%	99.7%	103.2%	101.6%
パブ・ビアホール	10	366	106.4%	100.5%	104.6%	101.7%
居酒屋	29	1713	104.1%	99.5%	102.5%	101.6%
ディナーレストラン(計)	22	945	104.8%	102.9%	103.7%	101.1%
喫茶(計)	25	2485	105.3%	100.7%	101.5%	103.7%
その他(計)	20	208	107.5%	97.2%	99.7%	107.8%

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 4月27日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	4,762	2,821	-	-	-
		安値	2,508	2,484	-	-	-
		平均	3,131	2,612	-	-	-
		頭数	88	8	-	-	-
		96頭					
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,510	-	-	-	-
	1頭	頭数	1	-	-	-	-
	去 A	高値	2,994	2,600	-	-	-
		安値	2,470	2,378	-	-	-
		平均	2,648	2,555	2,264	2,054	-
頭数		26	6	1	1	-	
34頭							
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,884	1,829	1,773	-
		頭数	-	7	13	4	-
	雌 C	平均	-	-	1,796	-	-
		頭数	-	-	1	-	-
	去 B	平均	-	1,894	1,849	1,680	-
23頭	頭数	-	9	10	4	-	
去 C	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	347 246	1,036 816	- 185.5	(競り)	(相対)	
				-	12	45

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,653	1,892	1,845	1,738	-
	B	-	-	1,729	1,580	1,344
和 去	A	2,676	-	-	-	-
	B	-	-	1,690	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,193	1,174
	C	-	-	-	1,187	1,126
乳 去	B	-	-	-	1,302	-
	C	-	-	-	1,247	-
交 雌	B	-	1,795	1,818	1,637	-
	C	-	-	-	-	1,158
交 去	B	1,965	1,911	1,826	1,764	-
	C	-	1,787	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	900	1,016	1,003	939	950
	安値	897	810	799	464	313
	平均	899	884	869	780	490
	頭数	(2)	(281)	(271)	(129)	(133)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	845	828	807	-
	安値	-	837	807	785	-
	平均	-	839	814	796	753
	頭数	(-)	(6)	(3)	(2)	(1)

[大阪食肉卸売市場] 4月27日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,717	2,553	-	-	-
(頭数)	(7)	(4)	(-)	(1)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,771	2,533	-	-	-
(頭数)	(12)	(7)	(-)	(-)	(-)
B	2,603	2,465	-	-	-
(頭数)	(1)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,922	1,805	1,760	-
C	-	1,837	-	-	-
交雑去 B	2,031	1,930	1,839	1,747	-
C	-	1,998	1,810	-	-
豚	-	787	767	721	487

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	4月27日	4月24日	(4月累計)
豚	70,200	63,000	1,173,500
成牛計	3,430	3,840	83,410
和牛雌	680	810	20,520
和牛去勢	760	750	22,370
乳牛雌	470	640	12,290
乳牛去勢	480	270	8,060
交雑雌	570	660	10,010
交雑去	470	710	10,130

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 4月27日

東京	1,764 円	(前日 1,755 円)
大阪	1,818 円	(前日 1,804 円)

[豚・全農建値] 4月27日

上	中	取引頭数	市況
861 円	844 円	1,192 頭	急伸

と畜 売買	牛 45 頭	豚 103 頭	牛概況	もちあい
	牛 87 頭	豚 115 頭	豚概況	まちまち

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 4月27日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	724 (724)	- (-)	-	-	もちあい
仙台 [中]	794 (739)	741 (641)	494	116	続伸
栃木 [地]	816 (-)	753 (-)	1,631	49	上伸
茨城 [地]	825 (811)	797 (762)	1,381	737	続伸
群馬 [地]	858 (846)	758 (762)	1,976	226	続伸
さいたま [中]	846 (841)	838 (838)	229	228	続伸
東京 [中]	884 (845)	869 (825)	1,036	816	大幅続伸
横浜 [中]	855 (809)	827 (774)	674	661	続伸
山梨 [地]	- (-)	- (-)	158	91	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	811 (832)	791 (784)	993	170	下押し
京都 [中]	744 (740)	714 (744)	105	86	もちあい
大阪 [中]	787 (-)	767 (-)	103	96	まちまち
神戸 [中]	- (684)	- (684)	156	-	上場なし
岡山 [地]	742 (678)	734 (683)	393	341	暴騰
広島 [中]	769 (774)	740 (746)	334	100	反落
福岡 [中]	792 (771)	750 (713)	590	166	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。京都の前日は25日。

[日本食肉流通センター] 4月20日～4月26日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,346,331 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩コース	1,220	1,301	1,363	1,298	63,386
うで	810	848	892	856	114,050
コース	1,165	1,244	1,347	1,234	158,600
ばら	1,300	1,337	1,366	1,341	139,220
もも	821	864	900	864	171,834
ヒレ	1,188	1,287	1,323	1,265	9,969
セット	1,048	1,079	1,088	1,071	689,272

◇近畿圏 総重量 741,774 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩コース	1,291	1,416	1,481	1,398	56,793
うで	794	815	848	820	123,950
コース	1,188	1,295	1,325	1,280	93,509
ばら	1,320	1,380	1,450	1,387	127,475
もも	801	816	861	824	179,591
ヒレ	1,242	1,404	1,474	1,376	11,971
セット	1,025	1,070	1,246	1,095	148,485

[食鳥正肉日経相場] 4月24日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	758	835	1,004	196
ムネ	443	490	682	190

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	735	782	1,050	8
ムネ	444	506	610	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 4月24日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,066	687	550	600	650
安値	760	450	290	360	350
平均	837	497	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

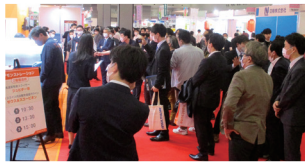
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

イベント

国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、フランクセット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々々の最も話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

教材&レポート等

あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

平野正男 著 鏡 晃 A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版

牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂新版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995